巻 頭 言

古 川 進 一

今年の夏山の遭難事故は最悪だったようです。

事故件数も昨年より 100 件以上多く 721 件で、統計を取り始めた 1968 年以降で過去最悪でした。

遭難者も 793 人、死者行方不明者 71 人で前年を大きく超えました。年代別でみると、40 歳以上が 627 人で約 80%、そのうち 60 歳以上が 367 人で約半分を占めます。

発生場所は長野県が一番多く 117 件であり、原因は疲労と病気が目立ちます。(数字は警察庁調べ)

今年は異常な暑さが続き、体力の消耗が激しかったからかと思います。

当会も中高年が多くなってきたので、無理なコース設定はせず、天気には十分注意して、登山届は必ず提出し、絶対に事故のない山行をしてください。

来年度も無事故で山行ができますようにお願いいたします。

目　　次

○ 巻 頭 言　古 川 進 一　1

○ 山行報告

キノコ山行（明神ヶ岳）	高 橋 充 夫	4
御座山	佐久間美智子	7
赤城　鍬柄山	高 橋　忠	9
一の倉沢、雨呼山（スノーシュー）	水 野 照雄	12
長野　五里ヶ峯	佐 藤　實	14
栗駒山	宮 崎　睦	15
仙人ヶ岳	宮 崎　睦	18
夕日岳	宮 崎　睦	20
群馬県南牧村の山々	小山田 泰幸	22
赤城　長七郎山	遠 藤 博 昭	25
渓流釣り	宮 崎　睦	27
八幡平　ドラゴンアイ	宮 内 健 治	30
長井葉山　山菜山行	金 井 秀 明	32
栗子　摺上川　滑谷沢　釣山行	佐 藤　實	34
槍ヶ岳	佐 藤 健 一	36
乗鞍岳	高橋 恵美子	39
勘七の沢　ヒル多し	金 井 秀 明	42
飯豊・白川（イワナ釣り）	高 橋　忠	43
鍬ノ峰	内 田 章 子	46

○　南極装備！　金 井 秀 明　49

○　旧会員　桜井利信さんを偲んで　古 川 進 一　50

○　表紙のことば　金 井 秀 明　51

○　平成 30 年度役員　51

○　ふみあと　52

○　編集後記　54

キノコ山行(明神ヶ岳)

高 橋 充 夫

日　　程　平成２９年１０月２６日～２８日
パーティ　宮崎、遠藤、水野、佐藤、高橋(忠)、内田、
高橋(恵)、高橋(充)

１０月２６日(木)、小見川支所を夜８時出発。実は、当初の計画では２７日金曜日に出発で、２８日～２９日だったのだが、２８日はキャンプ場が一杯で宿泊することができないことが分かり、急遽一日繰り上げたものである。(結果的にこの変更が大正解になったことは後で触れる)

いつものように、茨城空港北ICから常磐道、磐越道を走り会津若松ICから一般道に下り、日付が変わる頃に［道の駅会津］で二張りのテントと車中での仮眠。この辺りは気温が低くなることがあり、当日も１０月だというのに高速道路の電光表示の気温計は４℃を示していた。当然シュラフにすっぽりくるまって熟睡…のはずが、やはりテントでは眠れない。隣のテントから聞こえてくる快眠のいびきを聞きながら、うらやましくもあり、あきらめの気分ありの朝を迎えた。途中のコンビニで朝食を摂り、大岩登山口へ。睡眠不足での山登りは毎度のこと、そして今日の山はたかが１０７４mだと自分を慰めていると、車が２台ほど止めることができるスペースの目の前に、熊出没注意の立て看板が…。しかも、ご丁寧に恐ろし気な熊の絵が描かれている。最近、人間を怖がらず、背後から人を襲う新種の熊が現れたとのニュースも見聞きしているので、テンション更に急降下。パーティの仲間はこの看板を見てどう感じたろうか。きっと「大丈夫だよ」と言ってくれるだろうが、聞いてみるのも気が引けて、朝もやの中、身支度を整える。熊避けの鈴をしっかり付けたことは言うまでもない。

７時４０分、大岩登山口から登山開始。今日の天気予報では雨はないが、前日までの雨で足場はぬかるんでいる。滑りそうなところは避けて歩を進める。紅葉の進んだ山には色づいた落ち葉が積もっている。『濡れ落ち葉』という言葉がある。濡れた落ち葉はなんにでもくっつくことを例えて定年後の夫が出かける妻にくっついていくことを言うらしいが、歩いて

くっついてくるのは、植物の種子らしきものである。感心するのは、ズボンと言わずシャツと言わず、いや、人でも獣でも通りかかるもの全てに、自分の遺伝子を拡散してもらおうとする植物の戦略のたくましさである。最初の小休止で体中についた種子を笑いながら仲間と取り合っていると、いつしか山の世界に入り込んでいる自分がいた。いつの間にか朝もやは消え、頭上には青い空と陽の光を透かして輝くばかりの紅葉があった。人の手が入っていない、自然のままの黄色とオレンジ色、そこに濃淡のある緑色、紅色。人が意図してもここまでの色は出せまい。寝不足も忘れ、熊の看板も忘れていた。一日遅れて入山していたら、青空に映える紅葉の風景は拝めなかったかもしれない。(事実、翌日は朝からどんよりとした曇り空であった)

何より、今回はキノコ山行である。去年のキノコ山行も収穫は大だったが、この明神ヶ岳はいたるところにキノコがある。ただそれが食用になるかどうかは別だが。銀嶺の先輩達は実に簡単に見つける。ムキタケ、

ナメコ。特にナメコの群落に遭遇した時は嬉しい。木の表面にびっしりと見慣れた形をしたナメコ。ナイフで丁寧に収穫。ムキタケに至ってはコンビニ袋にずっしりと５袋。重くて持ったまま歩くのは邪魔になるからと、途中で大木の陰に隠して下山時に回収してくるほど。頂上付近は傾斜が急で足取りは慎重になる。下りは更に慎重になることが予想できた。

山を下りて、沼沢湖畔キャンプ場のいつものバンガローで大量のムキタケとナメコの下処理を済ませ、近くの「つるの湯」で汗を流す。薄い茶色の滑らかな湯である。戻ったキャンプ場では今日採ったキノコで鍋料理。いつにもまして豊富なキノコで美味しい鍋。お酒とキノコ鍋と、フォークソング大全集。楽しい時間は夜遅くまで続いた。日付が変わる頃にはお開きとなり、睡眠不足と山登りの疲れで、昨日とは打って変わって熟睡の夜であった。土間のある１号棟より畳の２号棟にいつものようにカメムシ大量発生。去年もシュラフの中に入り込んでそのまま我が家まで連れてこられた奴もいたっけ。明けて２８日、今日は観光の一日である。「つるの湯」で昼前からの温泉。贅沢な気分に浸る。目の前の只見川には小舟が２艘。舟から眺める紅葉もいいだ

ろうな。その　後、道の駅「奥会津かねやま」に立ち寄って美味しそうなリンゴを買った。それからメンバーの希望でJR只見線の川口駅から電車の旅。只見川に沿って鉄道が敷かれ、沿線は紅葉の名所となっている。紅葉のピークからはやや遅れたが、それでも、紅葉目当ての客がわざわざ乗車してくるほど、この季節は人気の路線になっている。当日も団体客が乗り込み、車内は混雑し思い思いに電車の窓越しに写真を撮っている。自分も負けずにシャッターを押す。下車の坂本駅は貨車を駅舎としている。初めて見る駅舎のたたずまいである。当然無人駅。飾りのない素朴な風景に妙に溶け込んでいた。水野さんと遠藤さんが車で先回りして我々を待ってくれていた。感謝、感謝である。その後、駅近くのソバ屋「御殿場茶屋」で昼食。一枚板の分厚いテーブルと木を丸ごとくり抜いて作ったような重厚で見事な椅子。柱も梁も信じられない位に太い。贅沢に材木を使っている。この辺りが木材の産地であることが分かる。さて、メニューを見ると、そばとソースカツ丼が目についた。自分はご当地名物のソースカツ丼を食す。カツの何と大きいことか。ごはんの量も多く、満腹。この店のソースカツ丼はTV番組で取り上げられたこともある逸品であるらしい。店の趣向か、外にはレトロな看板が多数取り付けられている。昔見たなァと懐かしく感じるタレントを使った看板。本名が南口(なんこう)キクノであることから芸名浪花千栄子が大塚製薬のオロナイン軟膏のCMに起用され看板にもなったことを知っている自分が銀嶺の諸先輩方に負けず劣らずの年齢であることに愕然としたが、看板談義に楽しいひと時を過ごした。

　いい景色を眺め、おいしいキノコを食べ、今年もキノコ山行を十分に楽しむことができた。また来年、この季節にこの山に戻ってきたい、そう思える山行だった。

御 座 山（おぐらさん）

佐久間 美智子

日　　程　　平成２９年１１月２３日～２５日

パーティ　　宮崎、高橋(忠)、佐久間

２３日

小見川発 20 時、道の駅「ヘルシー・テラス佐久南」で仮眠

２４日　御座山

栗生登山口発	7：45
不動の滝	8：31
御岳神社の石祠	9：50
避難小屋	10：11
山頂	10：19
栗生登山口着	13：56

すっかり葉を落とした静かな木々の中を、三人で登って行きました。ほどなく不動の滝。水は凍ってつららになっていました。

ここから本格的な登りですが、要所要所に鎖があるので、登りやすかったです。山頂近くには、立派な避難小屋が建っています。山頂は狭い岩稜で、ところどころ雪もついていて、さらに強い風。慎重に、慎重に。

期待を裏切らず、とても展望は良かったです。いつもなら、見える山々にうっとりするのですが、山頂が狭く足場も悪い、風も強いとなると、やはり怖さを感じました。男の人が一人登ってきましたが、私たちより早く下りました。私たちは、避難小屋で休憩し、登ってきたルートで下山しました。ところが、なんでもないところで、私が大きくコケるアクシデント。何が原因だったのか、どういう状態だったのか……？　左ヒザを痛めてから、踏ん張りが効かな

くなっている気がします。二人には心配をかけました。ごめんなさい。

下山後は上野村の浜平温泉しおじの湯につかり、宿泊は自然体験学習の家「小森れ陽」。県産木材を使用した２階建の建物で、２０１６年５月にオープンしたとてもきれいなところです。食材を持ち込めば、食器、ガス等すべて大丈夫です。男の人は和室、私は洋室（ベッド）を使いました。

２５日、笠丸山へ登山する予定でしたが、前日に私がコケているので、観光に変更しました。

上野スカイブリッジ、不二洞、旧黒澤家住宅、慰霊の園をまわり、静かな秋を過ごしました。お二人にはお世話になりました。ありがとうございました。

赤城　鍬柄山

髙 橋　忠

日　　程　　平成３０年１月２７日～２８日

パーテイ　　宮崎、内田、遠藤、原田、佐久間、髙橋(忠)

忘年山行が中止になり、今まで新年山行というのも特には無かったので、山に登ったついでに（どっちがついでか、わからないが)、ゆったりと旅館に泊まり、酒を酌み交わそうと赤城の鈴ヶ岳を計画した。赤城は黒檜山・駒ヶ岳、地蔵岳に続いて三度目である。都合が付いたのは、６名。原田さんとは、数年ぶりに一緒に出かけることになる。酒豪の原田さんが一緒なので、夜の宴会が行く前から楽しみである。

２７日、朝６時に小見川支所を出発して、新坂平駐車場（鈴ヶ岳登山口）に１１時３分に到着。すでに駐車場には我々以外に５～６台の車が停まっていた。登山道はまだかなりの積雪が有り、スノーシューを履こうか迷ったが、先に登って行った人達のトレースがしっかりとついていたので、アイゼンで登ることにした。出発は、１１時２１分。気温は、－７℃。出発してすぐに内田さんが気温の変化に体がついて行けなかったのか、具合が悪くなった。私が一緒について、他のメンバーには先に行ってもらった。内田さんも、温かいお湯を飲み、５分くらいじっとしていたら回復したので、ゆっくりと雪景色を見ながら後を追う。

葉が落ちた木々に雪が白玉状にたくさん付いて、まるで花が満開に咲いているようでとてもきれいだ。歩き始めて２０分くらいで姥子峠に到着。先に行ったメンバーがそこで休憩していたので皆と合流できた。姥子峠から登り返して、小ピークの姥子山を越え、再び下って鍬柄峠に１２時２２分到着した。

途中、先に登って行った何組かのパーティーとすれ違った。鈴ヶ岳までは行っていないようだ。鍬柄峠から登り返したところが鍬柄山である。１２時５８分、出発してから１時間４０分弱、鍬柄山山頂に到着。木々の間から、三角形に尖った鈴ヶ岳が、ガスにかかってうっすらと見える。ここから少し行って戻ってきたという一行の話によると、大ダオまでやせ尾根で急な下りが続き、風も強く、登山道も氷っているとのこと。無理をせずにここから引き返そうということになった。眼下には大沼とその向こうに駒ヶ岳、黒檜山、更に右方向に地蔵岳と見晴らしは良い。しばらく雪景色に見とれ、記念撮影をして１３時１５分、引き返した。鍬柄山山頂は、風が強くのんびり

していられないので、少し下った風の穏やかなところでお茶をすることにした。

白玉団子(紅・白)入りのお汁粉で体を温めてもらい、更にコーヒー、行動食でお腹を満たし、ゆったりとくつろいだ。１４時１２分、休憩も終わり、下山開始。しばらく、歩いていると、後から女二人、男一人の一行がやってきた。鈴ヶ岳まで行ったんですかと聞くと、そうだと一言無愛想に答えて、足早に我々を追い越していった。どうやら鈴ヶ岳まで行ったのは、この一組だけみたいだ。鈴ヶ岳はガスがかかっていて、視界も悪そう、無理をして行っても、ただ行きましたと言うだけで全然面白く無いのではと思った次第である。我々は、ゆっくりと雪景色、雪の登山道を楽しみながら、１４時３８分、新坂平駐車場に無事到着した。

この後は、お楽しみの宴会である。赤城山南麓の一軒宿、日本秘湯を守る会 滝沢温泉滝沢館へ向かう。１５時５８分、宿到着。静かでなかなか風情のある宿だ。温泉でゆったりと今日一日の汗を流し、ビールと地酒を頂きながら、美味しい料理に舌鼓。年に一度の贅沢である。夕食後には囲炉裏を囲んで一休み、そして部屋に戻って二次会の始まり（風呂上がりに乾杯、夕食時に乾杯、部屋に戻って乾杯。三次会か）。持ち込んだお酒は、ウイスキー２本、ワイン１本、焼酎１本、日本酒３本、御神酒２本、缶ビール１２缶。新年会なので皆奮発して持ってきました。今年も一年間怪我もなく楽しく山行が出来ることを祈りながら、酒を酌み交わし、あっという間に時間が過ぎていきました。

二日目　９時半に宿を出発。観光をしながら帰宅。最初に向かったのは、みどり市にある富弘美術館。前々から一度は見てみたかった美術館です。体育教師だった星野富弘さんが、事故という一瞬の出来事から首から下の自由を奪われ、絶望の淵に突き落とされ、つらい闘病生活を送る中、口に筆をくわえて描いた詩画作品。文字と絵がひとつの画面に調和した素朴で美しい作品の数々。この絵から、「生きることのすばらしさ」「生きる勇気」を与えられる。皆、感動しながら作品に魅入っていた。約１時間見学して、次に向かったのが、足尾銅山。到着したのが１２時１５分、トロッコ列車が１２時半発。ちょうど良いタイミングだ。トロッコ列車に乗り、内へ入るとそこは当時のまま、日本一の鉱山の都と呼ばれた坑内へタイムスリップしたかのようであった。古ぼけた丸太で補強してある坑内は今にも崩れそうで薄気味悪かったが、炭坑夫の人形や、説明から当時の過酷な炭坑の労働などをうかがい知ることが出来た。銅山観光をしてから、途中、遅めの昼食を食べて帰宅した。

一の倉沢、雨呼山（スノーシューハイキング）

水 野 照 雄

日　　程　　平成３０年３月１０日～１２日

パーティ　　宮崎、佐久間、内田、高橋(忠)、遠藤、水野

湯檜曽川沿いのルートで一の倉沢を見に行く山行は、過去に 2 度行ったが、いずれも 2 月で深雪に阻まれマチガ沢までしか行くことが出来なかった。
今回は雪が締まり、湯檜曽川の流れも春を感じさせるものだった。

3 月 11 日、ロープウエーの駐車場で身支度を済ませ、道路を戻って湯檜曽川沿いのルートに入る。雪が締まって歩きやすいので、私と忠さんはルートに入った所にスキーをデポする。他の 4 人はスノーシューである。
曇り空であるが、明るく穏やかな天候で、気持ちが良い。私たちの他にも数人の人達を見かける。マチガ沢手前にある休憩所の建物は、半分以上雪の上に姿を見せていた。対岸の沢筋には大きなデブリが何ヶ所かみられたが、私たちの側は特に危険個所はない。順調に歩いて一の倉沢手前から林道を目指して樹林の中の緩やかな登りとなる。樹林が開けると正面に一の倉沢の岩壁群が見えてくる。上部はガスに包まれているが、衝立岩、烏帽子岩は全容を現し、立派な姿を見せている。雪を纏った中に聳える黒々とした岩壁群は迫力満点である。

一の倉沢入り口の駐車場は雪の広場になっており、すぐ近くまで一の倉沢から押し出されてきた巨大なデブリが迫っていた。ここで昼食とし、忠さんが用意し

てくれた、お汁粉をごちそうになる。スノーシューツアーの人達も到着して結構賑やかになる。天気は段々良くなり、白毛門も見えてくる。下り出す頃には青空が広がり、湯檜曽川沿いの道を歩く頃には清水峠の稜線をはじめ大源太山も堂々とした姿をみせる。湯檜曽川の流れと合わさった風景はとても良かった。
のんびり歩いて車道に戻る。ここから駐車場までの登り返しの道でバテてしまう。体力の低下は如何ともしがたい。

今夜の宿、湯の小屋温泉の照葉荘に入り、ゆったりと温泉に浸かる。今の私にとって、この時間が山行の中で一番幸せを感じられる一時である。食事の後は、談話室でいろりを囲む。いろりの前に座った遠藤さんがとても自然な姿に見えるのは、さすがと言うべきか。

3 月 12 日、宝台樹にある雨呼山へ向かう。峠の駐車場から歩き出す。今日も雪が締まっているのでツボ足で行く。頂上まではほんのひと登りである。頂上からは宝台樹の集落とスキー場が眼下に広がり、遠く武尊山までよく見える。のんびりとしたコーヒータイムを過ごし、下りにかかる。途中、佐久間さんがサングラスが無いことに気づき、頂上へ戻っていったが、見つからなかった。記念写真には写っている。出発前に身の回りの確認は必須事項の年代になったと思うところである。久しぶりに湯テルメで暖まり帰路に就いた。

去年の日光戦場ヶ原、今年の一の倉沢とも、スノーシューハイキングには最適な計画で、楽しませてもらいました。宮崎さんに感謝です。

サングラスの佐久間さんに注目

長野　五里ヶ峯

佐 藤　實

日　　程　　平成３０年３月１６日～１７日

パーティ　　高橋(恵)、金井、佐藤

何時だったか「たまにはいい山に行きたいね」と高橋さんに話しかけた事がありました。「いい山って何」と聞かれる事もなく、それは単なる独り言で終わったように思えたけれど、(面倒なヤツ）と覚えてくれてたのか？、金井さんの休日と合わせて五里ヶ峯に御招待となりました。

１７日　坂城神社裏の駐車場には先客が２～３台。周りの桜も後少しで咲きそうです。地本の人に「イノシシ注意」情報を受けて、山道を１０分程で右奥の登山道に入る。

冬枯れの木立ちの合間から坂城の町が見え、穏やかな春の一日はこんな山がいいと思う。途中では城跡を散歩コースと言う女性と２人組の若者と会い、姫城跡の標識を過ぎ急登をしばらくで葛尾城跡の休憩所に着いた。

村上氏城館跡には石碑があり、桜の枝ごしに善行寺平方面が一望できる。中央に千曲川が青空を映してコバルト色にうねり、後ろにそびえる北アルプスは「ワオー」ものので一見の価値ありです。

良く踏まれた、赤松やカラマツ林の道をたどり僅かの残雪を少し見て、６５分程で五里ヶ峯山頂に到着です。

寝ころびたくなる程平らで芝草状の山頂からの眺めはすばらしい。上山田から尾根を延ばした冠着山（かむりきやま）は別名姥捨山で、三角の頂上周辺は樹氷で白く飾られ、大きく見えた。この山は又、想いにふける風情のある山でもあります。特筆すべきは、白き峰々。白馬から後立、槍穂、乗鞍まで４K テレビの迫力で、一つ一つの山がくっきり見える大パノラマです。

後から数名が登ってきて腰を上げるも「いい山」は、名残り惜しく去りがたい。

山城跡まで戻り、登りより急な別ルートを下る。アカマツ林の両側にはテープが張られ、まぎれもなく松茸山だとわかる。きつい下りを７０分位で駐車場に戻ってきました。

長野が第二の故郷の金井さんにお任せで、上山田温泉に入り、旧家のおソバを食べて、海野宿へと足をのばす。江戸時代の北国街道、海野宿は道の両側に昔の佇まいの家が並び、閑散としていた。その時々、見る人により情緒感が別れる処だと思えました。

日帰りで、こんなに沢山楽しめて、ジイさんの寝言は言ってみるものと心得ました。

栗 駒 山

宮 崎　睦

日　　程　　平成３０年４月１日～３日
パーティ　　遠藤、高橋(忠)、内田、宮崎

１日

小見川役場を１７時５０分頃に出発し、鉾田ＩＣから常磐道の中郷ＳＡで夕食をとり、長者原ＳＡには２３時３０分頃に到着しました。

日曜日の夜のため、通行するトラックは少なく、駐車場も金曜の夜と違い空きスペースが多く、東屋の脇に３人用のテントを設営し仮眠としました。

２日

５時３０分に起床、仮眠道具やテントを撤収し、東北道の若柳金成ＩＣで降り、コンビニで朝食を食べてから、旧いこいの村へと到着。

駐車場では、単独者が出発の準備をしており、我々が準備をしている時に、早々と出て行ったが、歩きの登山者でした。

イワカガミ平までの道路は、いつものように除雪が進められています。出発時の積雪は昨年より少なく、イワカガミ平駐車場の雪は解けて駐車スペースの舗装面が半分位出ていました。

イワカガミ平付近の道路は今まで来た時にも、舗装部分は出ていることはありましたが、今回は路肩まで解けており、ふきのとうが採取できました。

４名の記念写真を高橋さんが撮り、レストハウス脇で休息した後、3人で山頂を目指して出発。

内田さんは、スノーシューのため、後発し途中まで登ってから、引き返し、先に駐車場に到着し、我々を待っていてくれました。

右側に見える東栗駒山も雪解けが進んでおり、樹林の見えるところが多く、段々と近づいてくる栗駒山の稜線も雪解けで、樹林が見えます。

山頂まで行くには、一度谷に滑り込んでから、登り返して樹林の出ている稜線の反対側となる北側斜面を登っていかなければならず、体力的にもきついようなので、今までにも全員が山頂から滑っているので、無理をして山頂まで行こうと言う者もいないため、全員一致で登頂は中止。

雪が途切れず、樹林が出ていない稜線の所まで行ってから、反転し滑走すること決め、再び登り出し標高１４０８Mの稜線に到着。

到着点は、中央稜線コースの登山道で、登山道は雪解けで土が露出しており、登山道脇の雪面で、お茶を飲み周囲の景色を楽しみ写真撮影してから、最後のお楽しみである滑走です。

雪質は締まっており表面が少しザラメの状で、非常に滑りやすく、動画を交互に取りながら直ぐにイワカガミ平に到着。

何時もの事ながら、山スキーは登るのは体力を使いますが、雪質が良いので滑るのは快適で、景色を楽しみながら、ゆっくり滑れば良いとは思っていても、何

時もの事ながらスピードが出てしまいます。

イワカガミ平へと滑り込んでいた時に登ってきた、地元のスキーヤーに話を聞くと、今年は例年より積雪は多かったが、３月中旬の大雨で雪が解けてしまったとの事でありました。

イワカガミ平で小休止の後は、雪が腐ってきた樹林帯を慎重に滑り、内田さんの歓迎を受け駐車場に到着。

帰路は、フキノトウを採取しながら、ハイムザール栗駒に到着し、何時もの様にコテージに宿泊。

今年は端の部屋は暖房の故障で使えないため、宿泊は真ん中の所であったが今年も他に宿泊客はおらず、旅館の方も２組しか宿泊客はいなかった様でした。

コテージ周囲も雪解けが進み、今までで一番積雪が少ないように思えました。入浴後５時頃から宴会となり、アルコールの量もかなり進みました。

３日

当初の計画では昨年行った世界谷地湿原に行く予定であったが、積雪が少なくスキーで行くことはできないので、平泉の観光として、厳美渓、達谷窟（たつこくのいわや）毘沙門堂、毛越寺、昼食にわんこそばを食べてから、中尊寺金色堂を見学してから帰路に着きました。

今回は山頂まで行けなかったが、４名とも快適なコテージに宿泊でき、内田さんの美味しい料理と温泉を楽しめ、満足の山行でまた来年も行きたいです。

コースタイム	旧いこいの村登山口	８：１０
	イワカガミ平	９：２０～９：５５
	９１７M	１０：３５～１０：５０
	１４０８M（稜線）	１１：３０～１２：２５（滑走開始）
	イワカガミ平	１２：４５～１３：０５
	旧いこいの村登山口	１３：２５

仙人ヶ岳

宮 崎　睦

日　　程　　平成３０年４月８日～９日
パーティ　　宮崎

８日

ロッキー印西店でボルダリングをしてから、野田市経由で栃木県へと向かい、小山市のスーパー銭湯で入浴、道の駅「どまんなか たぬま」にて仮眠しました。

９日

５時過ぎに起床し、朝食後に猪子峠へ行く道路は、道幅が狭く急カーブの所も有りました。

登山口が分かりにくかったので、注意しながら車を進めると、登山口の標識があり、その先の路肩に舗装された広い場所が有りました。

中央部分は個人住宅への進入路になるため白線が引いてあるので、前の畑で農作業をしている人に、駐車しても大丈夫か確認してから、準備をして出発しました。

登り始めは沢沿いの登山道で、水量が少ない沢を何度か渡渉してから、雑木林の中に、つづら折りの登山道が有り、以前登った茅ケ岳の登山道と似た雰囲気の場所を登って、尾根に出た所が熊の分岐となります。

尾根には満開の赤ヤシオと、半分位落花せずに残っている、山桜の花を愛でな

がら山頂に到着しました。

山頂で休息してから熊の分岐まで戻り、さらに尾根を猪子峠に下山するが、このルートは岩山の痩せ尾根のアップダウンが連続するコースで、１５メートル位の鎖場を降りる所も有り、体力を消耗するコースでした。

山頂から猪子山まで約２時間を要しましたが、下った標高差は、わずか１５０メートルしかなく、アップダウンが厳しく、下りに使うより痩せ尾根なので、登りに使う方が歩きやすいと思いました。岩山なので、赤ヤシオが多く咲いており、登ってくる者は平日ですが３０名位おりました。

猪子峠から、自動車道に出た所を左折するのですが、勘違いをして右折してしまい、猪子トンネルを通過してから間違いに気が付き、引き返したので２０分以上のタイムロスになってしまいました。

やはりどんな山行でも、地図はしっかりと見て歩かなければならないと反省した山行になってしまいました。

低山でしたが累積標高差は、９５０メートル有り少しきつい山行であったと感じました。

コースタイム

岩切	７：００
４４０M	７：５０～８：０５
仙人ケ岳	８：５５～９：３０
宗の岳	１０：２５～１０：３５
猪子岳	１１：２５～１１：４０
猪子峠	１２：３０
道路	１２：４０
岩切	１３：１０

夕 日 岳

宮 崎　睦

日　　程　　平成３０年４月２７日～２８日
パーティ　　宮崎、他１名

２７日

小見川役場を２０時５０分頃に出発し、鉾田ＩＣから北関東道に入り、宇都宮上三川ＩＣからＲ１１９号線で宇都宮ＩＣに行き、日光有料道路の日光ＰＡには、２３時３０分頃に到着。連休前日なので、１０台位の車中泊の車がおり、朝に車は２０台位に増えていました。

２８日

５時過ぎに起床し、日足トンネルを足尾側まで行き、細尾峠へは足尾側から行きましたが、帰路に使用した日光側のルートよりも距離が短く、道路に枯枝なども少ないため運転者しやすかった。

細尾峠に到着すると、１台先着の車両がおり出発の準備をしている時に、更に２台来ました。

２０１０年５月１１日に登っているのですが、初めは急登の思い出があるコースで、前回は目的の赤ヤシオは、見事に咲いていた思い出が有ります。

今年は、山レコによると、暖冬で花の開花が平年より早く、花付きも良く今が見頃だそうなので期待しての山行です。

薬師岳までの急登は、体力が落ちているのでかなりきつく感じたが、何とか山頂に到着。

前回と同じように見事に赤ヤシオが咲いています。

少し休んでから、夕日岳へと向かうが、前回来た時の記憶は、「尾根道を周囲に咲く赤ヤシオを見ながら快適に歩いた。」というものでした。

しかし、今回は尾根道のアップダウンの繰り返しが、きつく感じられた歩きで、加齢に伴う体力の低下を改めて感じました。

赤ヤシオは、満開の状態で何処も見事で、三目から夕日岳の間は花のトンネルとなっていました。

夕日岳の山頂は、男体山側の木が刈り払いされており、登ってくる途中では樹林の間からしか見えなかった、白根山や男体山などの日光連山が良く見えます。

帰路も同じルートを引き返しましたが、往路よりも疲れが溜まっているので、歩く距離が長く感じられましたが、赤ヤシオを愛でながらの下山で、登る時とは赤ヤシオに日の当たる角度が違うため、登る時とは違って見える、赤ヤシオの景色を楽しめました。

ゴールデンウィーク初日のため、かなりの人が登ってくると予想していましたが、すれ違った人数は２０人位で、下山した時の細尾峠の駐車車両は８台位で、混雑も無く花見山行を楽しめました。

やしおの湯で入浴し、同じルートで帰ったが、Ｒ１１９号線や高速道路も渋滞は無く、小見川役場には１８時３０分頃に到着しました。

歩いていて、股関節の痛みのために、右足が上がらなくなっているのを痛感した山行でした。

コースタイム

細尾峠	７：００
薬師岳	７：４５～８：００
休息	８：４０～９：００
三目	９：５０
夕日岳	１０：１５～１０：５５
休息	１１：４５～１１：５５
薬師岳	１２：５０～１３：１０
細尾峠	１３：４５

群馬県南牧村の山々

小 山 田 泰 幸

日　　程　　平成３０年５月４日～５日
パーティ　　小山田、他１名

2018年３月で定年となりました。延長して働く「再雇用」はしませんでした。仕事の割り振りによっては時間と責任と報酬に不公正が生じます。お気楽な同僚が身近にいたので、「もう十分働かせていただきました」と口には出しませんが、思っています。

４月からはパートタイム的勤務で、ほどほどに社会とのつながりを保てています。ところが、登山する日程は容易に生み出せるだろう、という目論見は外れました。普通に勤務している妻（帰宅は８時近く）の家事負担を軽くしようと、平日の夕食の用意を受け持ったまではいいのですが、調理はほぼ素人なので時間はベテラン主婦の倍以上かかり、いまだにネットでレシピを勉強してからとりかかるという回りくどさ。裏の畑で取れた野菜を無駄にしないという基本方針は守り続けているのですが、トマト・ナス・キュウリ・カボチャ・ゴーヤ……私の能力では一つの料理にまとまりません。

副夫（主婦との対比で）としての家族内のポジションにはすぐ順応できるだろうと甘く見ていましたが、なにかにつけ不器用だったことを後になって思い出しました。時間のやりくりに慣れるのに、もうしばらくかかりそう。

それでも、GWにどこか出かける、というのは無くしたくない行事です。出かけられればどこでもよいという妻と違って、私は「高いところ」にこだわりがあります。しばしばお世話になる群馬県南牧村のキャンプ場に、手遅れ承知で４月に電話したら、GWど真ん中にバンガローが一つ空きがあると……。「テント泊上等！」の気合が不要に。村の奥のどん詰まり、関東のいちばん端っことはいっても、GW中の「空き１棟」は奇跡的。というわけで南牧村へ。

５月４日。渋滞を避けて早朝出発したら８時過ぎには道の駅下仁田に着いてしまいました。（開通して間もない圏央道をありがたく利用しました。）昔、関越道のGW渋滞にはまってしまった経験から、その日は着くだけというスケジュールしか組んでいませんでした。しかし、時間があるなら突然の山ごころ。

登山口が近くて登降の時間が手ごろな山はないかと考えたら、即決で鹿岳。（という発作的な登山は危険ですから、よい子はマネしないでください。山地図は持ってましたけど。）

9：30頃登山口から歩き始め、12：30頃戻ってくる。14年前（もうそんなに経ってしまったんだ！）に佐原高校山岳部で登った時と登山道の様子が違います。ど

うやらその後かなり整備されたらしい。とにかく登山道らしい落ち着きが感じられるようになっていました。ジグザグ道になって、かつての急斜面直登（!?）に比べて実際の歩数は増えたことになるけど、歩きやすい。山頂直下のハシゴや鎖場には昔日の面影が残っていました。山頂では、たぶん樹木の背が伸びたせいか、山頂の更に奥の見晴らし岩は、近寄らないと気づかないような視界に。それでも西から北にかけては素晴らしく見通しがよい。荒船も浅間も妙義も、ほんとうにお久しぶり、なつかしい。また行きたいな。妙義と浅間の間でもっと遠くに見える山はなんだろう。（帰宅後、広域地図で調べて、草津白根と判明。）視界に関してはいうことなし。ただ、かなり急な登降なので、妻が膝痛。翌朝にはけろっとしてましたが。

翌５日は桧沢岳。今回の行楽の目標はこちら。といっても、何か理由をつけないとわざわざ西上州まで出かける名分がないから、というだけのこと。桧沢岳は登山情報に、登る人がいない不遇の山とあり、たしかに前日の鹿岳では５～６パーティーに出会ったのに、この日は誰にも出会いません。発7：30～戻11：00ぐらい。登り始めは鹿岳に輪をかけて、植林の間を高度をかせぐだけのつまらない道。植林帯を抜けてから、初めて山歩きらしい気分に。上部の危なっかしさは西上州お決まりのパターン。三点支持さえマスターしていれば、基本編なんだけど、筑波山レベルしか知らない人だったら、危ないからと引き返してしまうかも。山頂は樹木と天候のせいか、見晴らしがきかず。

本峰からの下山方向で判断に迷いました。ガイドにある道を降りていくと、登山口とは逆の方向へと導かれるので、不安になって、登路をそのまま戻ることに方針転換。たくさん降ってから登り返すことになったらいやだな、という心理です。自分単独だったら行っちゃっていたかも。人を連れていると、引き返すことになったら申し訳ないな、と思っちゃう。ところが登路をたどって戻るとき、尾根から別れるところで左右を間違え、谷の下側の方にそれて降りてしまい、おかげでクルマを置いた地点よりだいぶ車道を下ったところに出てしまいました。杉の植林なのでどうにでも降りられることから、大事には至らなかったが、感動のない作業道みたいなところを馬鹿にしてはいけません。

この道や行く人なしに桧沢岳

（パロディが下手すぎて芭蕉の崇拝者に怒られそう）

ＧＷの時期、ちょっと本格的なところへ行こうとすると、雪が残っていて多大な技術と覚悟を要求されます。その点、西上州はちょうど花の時期、いつの間にかＧＷの私の定番になってしまっています。中でも南牧村は、自分の技術水準に

見合いの山々がたくさんあります。私の南牧村イチ押しは「立岩」です。南側から山体を見上げる図柄がほとんどで、山自身が太陽に向かって胸を張っているような見栄えのよさが魅力です。過去、２度か３度歩いていますが、また行ってみたい山です。

　春のゆらぎ見つけてうれし西上州

赤城　長七郎山

遠 藤 博 昭

日　　程　　平成３０年５月６日

パーテイ　　高橋(忠)、内田、高橋(恵)、遠藤

また赤城に行くことになりました。去年の黒檜山、地蔵岳に続き、１月には鈴ケ岳（頂上まで行けず鍬柄山で撤退）へ行き、今度は長七郎山です。

５月になりツツジを見に行こうと日帰りで行く。小見川を５時出発、北関東道波志江PAのスマートインターから出ると直ぐに国道１７号に乗れる。赤城方面に行くときはここを利用したほうがいい。

国道から赤城山方面に向かう。見覚えのある鳥居をくぐり先へ進むと、カーブの多い上り坂になる。中腹あたりまでは新緑も綺麗で良かったが、登り切り鳥居峠あたりまで来るとまだ早い。このあたりからぽつぽつとピンク色のヤシオツツジが咲いており綺麗に見える。

もう少し先の小沼の駐車場に８時５０分到着、身支度を整え９時１０分出発。よく整備された道で歩きやすい。途中、林の中でピークの良くわからない小地蔵岳へ寄って見る。辛うじて木の板で出来たピークの看板があった。ハイキングコースなので、家族連れで登っていく客もいる。頂上に１０時到着、ティータイムを楽しんでいるとマウンテンバイクのグループが１０人位あがってきた。中には女の人もいる。感心して見入ってしまう。

ここから小沼へ降りる。ほとりを半周ぐらいしてベンチのある所で大休止。駐車場に１１時５０分に戻ってくる。まだ早いので中腹の荒山高原へ寄っていこうと話がまとまり箕輪の駐車場に向かう。午後になって帰った人もあり、辛うじて駐車スペースが開いていた。

１２時３０分歩き出す。こちらの道もよく整備されており歩きやすい。もう午後なので降りてくる人が多い。すれ違う人が、珍しいウスバサイシンが咲いているよと教えてくれた。注意しながら登っていくと、あった。小さな花でかわいい。花びらが少し黒い。周りを枯れ木で囲ってあり名札もついていた。

１時間の登りで荒山高原に着く。荒山と鍋割山の分岐で、周りにはツツジも咲いており少しのんびりしたい所だ。しかし、恵美子さんがもう少し登ると言い出し、荒山方面の見晴らしまで行くことにする。樹林の中の登りでちらほらヤシオツツジが咲いている。２０分位歩いて見晴らしらしき所に出たがぜんぜん良くない。

内田さんがここでやめると言い出し、残して恵美子さんともう少し登ってみたが、状況は変わらないようなので引き返す。合流してティータイムを楽しむ。見晴らしな

のにぜんぜん良くない。ただの分岐かもしれない。まあいいか、一人で納得して下山にかかる。

登ってきた道を引き返す。駐車場には１５時３０分に着いた。“富士見の湯”は改修中で休館になっていたので、少し先の“あいのやまの湯”で入浴して帰宅。
赤城山周辺は日帰りで充分に楽しめていいところでした。

渓流釣り

宮 崎　睦

日　　程　　平成３０年５月１５日～１８日
５月２８日～３１日
６月１７日～２０日
６月２５日～２８日

パーティ　　宮崎

股関節の痛みのため、登山や沢登りに行くのも辛い状態になってしまったので、歩行距離も少なくて渓流釣りができる、桧枝岐村の河川での記録です。

自宅を夜間に出発すると、途中で餌の購入ができなくなるので、毎回１５時頃に自宅を出て、神栖のホームセンターで餌を購入し、道の駅（田島、番屋、桧枝岐）などで前泊し、宿泊は桧枝岐村キリンテのかわばたキャンプ場のバンガローに２連泊しての釣りです。

バンガローは１棟に１人で宿泊しても、２５００円で宿泊でき、村の温泉は、法人の入浴券を貸してくれるので無料で好きな時間に入浴できます。

寝具、冷蔵庫、電子レンジ、鍋や食器類も備え付けて有り、個別に炊事場が有りますので、テン泊とは違い雨でも快適に宿泊できました。

毎回平日に行ったのですが、早朝から釣り人はおり、沢登りでの源流釣りとは違い魚も擦れており、見えているのに餌を食わないことが、かなりありました。

河川の広い所も有るので、フライやルアーの釣り人の方が餌釣りよりも多くいました。

１回目の釣りは、年間の釣券（４５００円）をかわばたキャンプ場で購入し、河川のポイントを教えてもらってから出発。

沢登りの記録などにも載っていた、七入から一般車通行止めの表示のある林道を実川沿いに、矢櫃沢合流地点の手前まで行き、実川に入渓し今年最初の渓流釣りを、大物がヒットするよう期待して竿を出すが、まったくアタリなし。

昼食を食べてから車まで引き返し、林道を戻る途中で「ブシュー」という音が

車両後部から聞こえてきました。

この林道は、整備されていないので落石が多くあり、その中には尖った石もあるので、それが刺さってタイヤがバーストしてしまいました。

林道を出た七入でスペアータイヤに交換し、キャンプ場に戻りましたが、タイヤは修理不能なので、自宅までスペァータイヤで戻るのも、安全に帰れるか不安が有るので、交換することにしました。

桧枝岐村にはタイヤ交換ができる店は無いので、キャンプ場で販売店を教えてもらい、注文すると翌日の午後には入荷するとの事で、翌日雨の中を南会津町（旧伊南村）まで、片道３０キロの距離を行ってきました。

安易に林道に入ってしまった為に、タイヤ交換の手間暇や費用を考えるとトホホです。

しかし、夕方にキャンプ場近くのキリンテ橋の下で竿を出すと、最初に今までで一番の大物（３５センチオーバー）をゲットでき、アンラッキーな一日で終わることが無かったのが幸いです。

バンガローに帰り岩魚の写真を撮り、刺身に裁いてから、燹の湯で入浴を済ませ、一人で少し寂しい夕食を取り就寝。

翌日は、キャンプ場脇の桧枝岐川、翌々日は朝に舟岐川に行きましたが、数匹の釣果でした。

５月中旬のため雪解け水が多く、限られた場所しか入渓することができず、ポイントによっては、短い竿では届かない所も有りました。

６月になると、奥只見まで道路も開通したので、６月１９日に只見川に小沢平から入渓し１時間位遡行しました。

良いポイントもかなりありますが、尾瀬ヶ原から三条の滝を経て流れる只見川の水量は多いので、ポイントまで近づくことができない所も多くありました。

この日の釣果は小さいサクラマス１匹、先行したルアーの釣人に帰ってから釣果を聞くと、本流はだめで、枝沢で岩魚１匹の釣果との事でした。

昼過ぎに終了したので銀山平方面に、中の岐川が奥只見湖に流れ込む所（中の岐川沿いの林道を限定された車で行き、平ケ岳まで一般ルートの半分位で行ける、皇太子が平ケ岳に登山したルートの林道入口）まで行きましたが、奥只見湖に流れ込む沢にはスノーブリッジがまだ見られ、雪解けの早い年なのに、まだ残っているのは、さすがに日本有数の豪雪地帯だと改めて思いました。

６月２７日は、早朝に会津駒ケ岳の登山道へ行く林道沿いの下ノ沢で、２匹の釣果が有り、昼前からにわか雨のため、午後はアルザの湯にのんびりと浸かり、雨が止んだ１６時頃から再び下ノ沢に行きましたが、増水で入渓できる所は１箇所しか見つかりませんでした。流れも速く濁りもすごいので駄目かと思いながら竿を出すと、３０センチ超と他に２匹釣ることができました。

今まで、ブドウ虫では見えている岩魚は、餌を食べないのでミミズはどうだろうと用意しましたが、見える魚は食べてはくれませんでした、しかし濁りの時はミミズが良いと、聞いていた通りの釣果になりました。

翌日の、朝にも下ノ沢に行きましたが、濁りも無く水量も前日の朝と同じ位になっていました。釣果は０で桧枝岐の渓流釣りは終了しました。

４回合計の釣果は３０匹位有りました、来年は、もっと良いポイントを探して、釣果アップできたら幸いです。

八幡平　ドラゴンアイ

宮 内 健 治

日　　程　　平成３０年６月３日～６日
パーティ　　宮内、他１名

３月１８日に八幡平スキーに行った時に、山でお世話になったガイド（高橋）さんと、マウンテンホテルで行き会いまして、６月に来ればドラゴンアイを見られますとのことで、クラブツーリズムでホテルと新幹線の予約をとりまして。

６月３日、銚子駅７時42分の特急列車で東京駅まで。八重洲北口がいつも集合場所です。少し時間があるので、すぐ脇のコーヒーを飲める休憩所で時間を潰していました。９時過ぎに東京駅を出発しました。12時過ぎに盛岡駅に着き、じきにホテルの大型バスが迎えに来ました。50分くらいでホテルに着き、すぐに温泉露天風呂に直行です。いい温泉です。

６月４日朝、９時半にガイドの運転する四駆のハイエースバンで、ドラゴンアイが出来る鏡池に向かってホテルを出発しました。八幡平レストハウスの駐車場に車をおき、15分くらい歩くと残雪があり、針葉樹の近くを歩くと足が潜ってしまって歩きづらいです。鏡池に近づくとツアーの団体で込み合ってきました。最近になって有名になったそうです。池に積もった雪が真ん中を丸く残して解け、解けた水の色が綺麗なブルー色で、残った円形が白い目ん玉に見えます。それで竜の目（ドラゴンアイ）と言うそう。隣にある眼鏡沼は、まだ雪で埋まっています。少し大きいがま沼は、真ん中の雪が薄くなっています。一番大きい八幡沼は真ん中はほとんど解けていますが、周りは大部分は残っています。途中、水芭蕉の花も数本咲いていたり峰桜が満開に綺麗に咲いている所を通り、八幡平頂上に寄り、レストハウスの駐車場に戻ってきました。
お昼近くになったのでガイド（高橋）さんに安比高原のラーメン屋に連れていってもらいました。１時間少しかかったと思います。味噌ラーメン辛口の味、おいしかったです。高橋さんから、これから明日ガイドするお客様のコースを下見に行くけど行きませんかと誘われて、時間もあるので行くことにしました。馬の放し飼いを見ながら安比高原の牧場を抜け、林道に入ったら頭が天井にぶつかるほど揺れてひどい林道です。林道がなくなったところで右側に沢が流れて正面には大きい堰堤があり、もうこれ以上進めません。これで下見調査は終わりました。有意義な１日でした。

６月５日秘湯温泉巡りです。松川渓谷沿いにある峡雲荘に日帰り入浴に行きます。レトロな50年前の４輪駆動のボンネットバスが、ホテルから出ています。30～40分で着きました。さっそく露天風呂に直行です。乳白色の、硫黄の匂いのする、温度適温でとても良い温泉でした。６月６日朝、ホテルをバスで８時に出て盛岡駅へ。新幹線で東京駅まで、高速バスに乗り継いで銚子駅まで、帰ってきました。

Dragon　eye

長井葉山　山菜山行

金 井 秀 明

日　　程　　平成３０年６月６日～８日

パーティ　　遠藤、高橋(忠)、内田、佐藤、高橋(恵)、金井

春恒例の山菜山行に参加しました。場所は朝日連峰のはじっこの葉山。山菜をとりながら登って、頂上の避難小屋で山菜料理を味わいつつ泊まるという魅力的な計画です。また、葉山のふもとの長井市は佐藤健一さんの故郷なので、出発前にいろいろ情報をいただきました。

６日の夜に出発し、深夜に道の駅長井に到着、仮眠をとる。翌朝コンビニで食糧調達し登山口の草岡へ向かう。草岡登山口の駐車した広場にはワラビがたくさん生えていて、さっそくワラビ狩りとなる。

歩きはじめてしばらくは林道歩き。青空のもと、森の中を進んでいくのは気持ちいいが少々暑い。林道沿いの渓流で遠藤さんや忠さんが釣りを試みるが釣果はないようだ。

やがて大石大明神で林道から登山道に変わる。だんだん傾斜も増してくると、コシアブラの若木がちらほら目につく。そのうち大きな木があるかなと期待がふくらむ。オケサ堀を過ぎるとややなだらかになり、予想通りコシアブラの成木が現れてきたがすでに葉が開いてしまったものばかりだ。

休憩をはさみつつゆっくり登っていくと雪渓が出現。標高は 1000mくらいあるだろうか。このあたりには食べるのにちょうどいいコシアブラがあり、ザックをおろして収穫タイムとなる。登山道沿いにはネマガリタケも見つかるようになってきたが、ぼくは見つけるのが下手なようだ。ここはネマガリタケ名人の恵美子さんにがんばってもらう。

気がつくと登山道もだいぶ平坦となり歩きやすくなってくる。昭和堰への分岐を過ぎる。昔の人たちはこんな山の上に水田開拓のための堰を作っていたとのことで、まったくたいしたものだ。忠さんがスマホのアプリを見ながらもうすぐ小屋だと教えてくれる。こういった山の中でも現在地が正確にわかるアプリで、これさえあれば高価な GPS がなくてもかなり遭難が減るだろうなあと感心する。

忠さんのいう通り、じきに葉山山荘に到着。二階建てで 20 人くらいは泊まれそうな小屋で、新しくはないが手入れが行き届き快適に過ごせそうな雰囲気だ。すぐ後ろには葉山神社の祠がある。ここが葉山の山頂ということか、残念ながら木々に囲まれほとんど周囲の景色は見えない。

小屋に入ると一階の大部分は土間で真ん中に薪ストーブがある。二階は快適な

板の間で、荷物をひろげさっそく料理の支度にとりかかる。みんなで山菜の下ごしらえが始まるころ、ぼくと佐藤さんは水場へ、遠藤さんはビールを冷やす雪を取りに雪渓へ向かう。水場は思ったより下ったところで少々しんどかったが、冷たいきれいな水をたっぷり補給できた。

内田さんや恵美子さんのあざやかな手仕事で料理作りはてきぱきと進み、テーブルの上にはいろいろな山菜料理が並んでいく。コシアブラ、ネマガリタケ、タラノメ、ヤマウド、ミズナなどなど。外もやや薄暗くなってきた頃、雪で冷やしたビールで乾杯し楽しい時間が始まる。揚げたての天ぷらは絶品でいくらでも食べられる。おいしい料理とアルコールで話もはずみ、夜は更けてゆく。

翌日、下山前に小屋から少し西にあるピーク、奥の院へ行ってみることになった。飯豊連峰の展望がいいところらしい。そういえばきのうは樹林帯ばかりで周囲の景色はほとんど見ていない。小屋から稜線を 20 分程も歩けば奥の院に到着、満開のサラサドウダンに囲まれた見晴らしのいい頂上だ。目の前には残雪たっぷりの飯豊連峰がどーんと広がっている。祝瓶山から南へ延びる長い尾根が堂々として見事だ。景色を堪能して小屋へ戻り下山にかかる。

下山は昨日登ってきた道ではなく、白兎コースといわれる道だ。尾根沿いの道だがずいぶん掘れてしまっている。大昔からずいぶん大勢の人に歩かれてきた道なのだろう。ゆうに身長分はえぐれている急傾斜の道を下っていく。正面には山形の田園風景が広がり、もうすぐあのあたりで温泉入って美味いものを食べて、と想像しながら下り、やがて下山口の葉山森林公園に到着。

公園の立派な東屋には飯豊の清涼な水があふれ出る水場があり、ゆっくりするには絶好のところだ。しかし、ここからは登山口まで車を回収しに行かなければならない。ぼくと忠さんで、初夏のような太陽で焼けるアスファルトを１時間くらい歩いて車を回収してくる。あとで佐藤さんがぽつりと言った。２台で行ったのだから最初に１台を下山口に置いてくればよかったねと。６人もいたのに誰も気がついてなかったのはうかつでした。

下山後は長井市の“はぎ乃湯”にて入浴、それから道の駅長井で食事をとって帰路につく。健一さんおすすめの“たまげたラーメン”は閉まっていて食べることはできなかった。残念。

栗子 摺上川 滑谷沢　釣山行

佐 藤　實

日　　程　　平成３０年６月２８日～７月１日

パーテイ　　遠藤、高橋(忠)、佐藤

遠藤さんから釣山行に誘われ、１２年ぶりに栗子の滑谷沢に行って来ました。今年は入梅もどこへやら、６月中から暑い日が続き今日も格好の沢日和です。

２泊とは言え、パッキングをして見ると久々の２０ｋオーバーのザックを背負い、まずは二ツ小屋トンネルに向う。栗子トンネル周辺は高速道も完成し林道入口が変った他は、かつて見た風景を辿り、ザックが苦になる前に大平橋に着いた。ここで沢靴に履き替えて、道路ノリ面の大ヤブを分け、大平沢に降り立つ。

ゴーロ状の沢は下るにつれ滑沢になって、沢に浸る幸福感が足元から湧いてくる。１時間程でブナの台地のテント場に着いた。立木にビニールシートがデポ巻きしてある他は焚火の後も寸分変わらず昔のままで、前に広がるブナ林は、二口山塊桶の沢避難小屋前のブナ林と良く似て互角の美しさだと思う。

少し斜めに思えるも、焚火を考慮してテントを設営。遠藤さんと忠さんはもう毎年のように通っているので、勝手知ってる我が家の要領で、早速運びヒモを持ち薪集めに出かけ、結構な量を持ち帰って来る。

竿を出し、滑谷沢を釣り下るも自分には全くあたりがない。大滝で２人は実力を見せ、共にワンツーフィニッシュ。いい形のイワナが釣れました。初日の釣果６匹。今日は早目に上ることにしてテント場に戻って来ました。

焚火の花形、着火役は遠藤さんから忠さんに流派が代り、小枝のチロチロから燃えさかる行程はヒマなら見てて楽しい一時なので皆さんも機会があれば是非どうぞ。

宴の準備やイワナのクシ焼きを始めた矢先、夕立ちと雷になりクシ焼きも抱えて、テントに待避する事、小１時間少し。日が暮れ始めて準備再開です。

いつもながら「用意周到」の達人忠さんが、薪用のビニールシートを２枚も持参してカバーしていた為、薪は濡れずに焚火もすぐに復活となり、遠藤さんと忠さんの作ったごちそうが出揃う。

ミズのサバソーセージ、イワナの唐揚げ、ミズの塩コンブ和え、サラダ、他、内田さんのビールで乾杯です。８時頃にはイワナのクシ焼きも出来上り、沢音と焚火のあかりで過ごす夜、話した事は忘れても何事にも代えがたい時が流れて行きます。

３０日（晴）焚火の煙りが沢沿いに流れるブナ林を見ながら、朝カレーを食べた。釣り支度をしてキラキラ陽の差す滑谷沢を大滝あたり迄下り、竿を出す。今日は終日時間制限もなく、のんびりするが肝心のイワナはポイントと言われる処では、全くも

って、あたりがない。釣り師の域の２人はコンスタントに釣り上げて、大滝の釜では昨日に続き腕の見せ合いになり、自分も辛うじて3匹。計１６匹を確保です。

更に忠さんの「大滝物語」には、今年も１ページ追加されました。
大滝で釣れた良形のイワナが、生けて置いた網袋ごと逃走してしまったとのこと。釜の底で仲間のイワナに袋から出してもらえたかどうか、定かではありません。

今日はこれにて終了とし。ベースに戻り早目の夕食準備を整えて置く。折りしも、昨日に続き、ピカピカ雷雨が頭上を通る。幸いブナはほぼ同じ高さで、沢の底なので心配無用、でも一時テントで雨やどりとなってしまう。

今晩はイワナ料理が追加され、玉ネギ・エノキのホイル焼き、イワナのクシ焼き６本、など。冷すのに苦労した焼肉は邪道で捨てようとしたが、何とか食べ切れました。２度の雷雨も話のタネのひとつ、和やかな時だけの一日が焚火と共に終えていきます。

１日、最終日、今日も清々しい朝を迎えた。

集めた薪も小枝迄全部使い切り、コーヒーと朝食をゆっくり済せて、テント撤収に取りかかる。少し軽くなったザックを背負い、きれいなナメ床をいつくしむ思いで、帰途に着く。

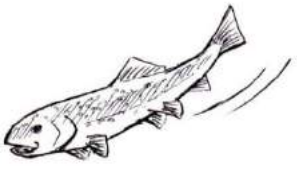
約６０分で大平橋上に出て沢シューズを替え、軽やかになった分ザックは重くなり烏川橋、二ツ小屋隧道と進み、昼頃に東栗子トンネルに帰って来ました。

コースタイム

２９日　(駐)６：３４発７：０２－二ツ小屋トンネル７：３５ 発８：１０－
大平橋９：３２－大平沢９：５２－ベーステント場１０：５５－
(釣り)－ベース

３０日　ベース７：３０～（終日釣り)～ ベース

１日　ベース ８：２６ ～ 大平橋 ９：３０ 発 ９：５８ － 烏川橋 １０：４７
発 １１：００ － 二ツ小屋トンネル １１：１１ 発 １１：３３ －
東栗子トンネル １２：１４、 － 飯坂温泉へ



大 源 太 山

原 田 裕 之

日　　程　　平成３０年７月１日
パーティ　　原田

大源太川北沢にしようか迷ったが、尾根道を行くことにした。湯沢の除雪ステーションで仮眠し、朝食をとった後、５時半頃旭原登山口に到着した。準備して４０分に駐車場から出発した。初めは涼しくペースも上がったが、暑くなるにしたがって立ち止まり休むことが増えてきた。それでも８時半頃大源太山の頂上に着いた。天気はよかったが谷川本峰だけは雲に隠れていた。周囲の景色を楽しみつつ休憩し、１０分後に出発した。頂上から５分ほどで急斜面の鎖場となった。普段なら鎖には触れずに通過するのだが、面倒くさく思い鎖に体重をかけながら下った。振り返ると大源太山は右側が切れ落ちてマッターホルンの様であった。コルからは休み休み進み、ようやく七ツ小屋山に到着した。ここでも谷川岳は見えなかった。頂上では白毛門、朝日岳方面から来た馬蹄形縦走の人、及びトレイルランナー数人と挨拶を交わしつつ、その後に付き出発した。今日は谷川岳の山開きだそうだ。登山道は非常に歩きやすく、前者に続き駆け下りるように下った。シンゴヤノ頭との分岐までは２０分ほどで駆け下りた。稜線から離れると人はほとんどいなくなった。ここから旭原までは１パーティーとすれ違っただけであった。シンゴヤノ頭までは傾斜はゆるく歩き易かった。そこからは概ね道はしっかりしていたが、ところどころ崩れかかっていた。それでも走りながらではあったが、七ツ小屋山から２時間ほどで旭原に到着した。

5:40　旭原　　8:30－8:40　大源太山　　9:45－10:08　七ツ小屋山
11:02　シンゴヤノ頭　　12:05　旭原

槍 ヶ 岳

佐 藤 健 一

日　　程　　平成３０年７月１３日～１５日

パーティ　　佐藤健、他１名

山好きな会社の同僚に涸沢の紅葉の見事さを話したら「今度一緒に槍ヶ岳に登りましょう」と誘われました。槍ヶ岳に登ったのは 38 年も前のこと。10 歳年下の同僚についていけるか不安でしたが、二つ返事で登る約束をしていました。
今年は梅雨明けが早く、海の日を挟んだ三連休は晴天続きの予報。これを逃す手はないと混雑を避け、金曜日発で行ってきました。

７月１３日（金）

沢渡から乗り合いタクシーで上高地へと向かい、5:30 に上高地バスターミナルを出発しました。徐々に広がっていく青空の中を軽快に歩いて 8:30 に横尾到着。そして涸沢方面と別れ槍沢に沿って順調に進んで行き、10:00 には今日の宿にした槍沢ロッヂに到着してしまいました。とりあえず受付を一番乗りで済ませましたが、次々到着してくるよそのパーティが少し休んではさらに上へと向かう中、残された軟弱な我々は何もすることがない贅沢？な時間。

ロッヂの入浴が 15:00 からという事なので、早々と談話室に陣取って昼前から酒を酌み交わします。缶ビールで乾杯し、持ってきたサントリー「知多」を開封。酒が入って話は尽きず、気が付けばボトルはほぼ空っぽ（300㎖ですが）。いつの間にか15:00 になっていました。

７月１４日（土）

ロッヂは混雑もなく快適に一晩を過ごしました。そして 5:30 に出発。ロッヂ横の望遠鏡からは槍の穂先がバッチリ見えてます。大曲を過ぎたあたりから沢が開け、強い日差しが照りつけてきました。前方に大喰岳～中岳の残雪と稜線が見え、しばらくして槍が姿を現すと、いやが上にも気持ちが高ぶります。

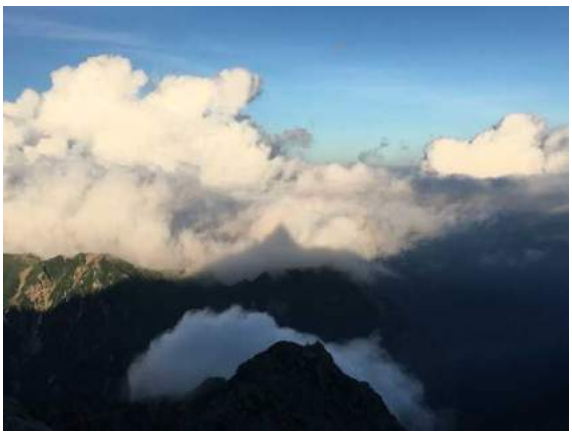
空気が澄んで黒ずむほどの青空に、屹立し突き刺さるような槍の穂先。肩には槍ヶ岳山荘の赤い屋根が見え、槍ヶ岳の頂上へと続く岩稜は、後で

取りつくかと思うと緊張してきます。登山道の周囲には所どころチングルマやキンポウゲなどのお花畑が広がり、残った雪渓から涼しい風が爽やかです。

登るにつれ傾斜がきつくなって息も上がりましたが、11:00 頃に槍ヶ岳山荘に到着。一休みして荷物を置くとヘルメットを取り出します。私のメットは学生時代に使っていた重くて通気性が全くない代物。周りを見ると、軽くて通気性に優れた新型ばかりで恥ずかしい。さっそく槍の取り付きに向かいますが、まだ登山客は少なく穂先にへばりついているのは 20～30 人といった所。渋滞覚悟だったので金曜日に来れて良かった。

久々に岩稜を登り 11:30 に槍ヶ岳登頂。前日までの強風の予報が嘘のように風もなく穏やかで、白馬、立山、南アルプスなどの眺望がすばらしい。学生時代ここに立ったと思うと感慨深いものがありました。

38 年前、大学 1 年の時に蝶ヶ岳～東鎌尾根～槍ヶ岳～立山～剣岳と北上し、2 年では針ノ木岳～裏銀座～槍ヶ岳～横尾～穂高連峰と南下しました。あの頃は何もかもが新鮮で、重い荷物を背負いながらも、あそこを越えたらどんな景色があるんだろうとワクワクしながら歩いたように思います。他の大学のパーティとほぼ同じコースになり、毎日、どちらが先にテント場に着くか競争しながら歩いた事も若さゆえの思い出です。そういったルートを目で追いながら感慨に耽りたかったのですが、頂上はゆっくり過ごすには狭く、順番を待って記念写真を撮ると、次々登ってくる人に譲るため早々に小屋に降りました。



さあ、この感動を二人で分かち合おう、ということでこの日も談話室で昼から乾杯！さすがに槍ヶ岳山荘は登山客が多く、神戸からの 2 人連れや、よく一緒に山に登るという若い夫婦などと話が盛り上がりました。陽が傾いたころ外に出てみると、西岳山荘の横に湧いた雲をスクリーンにして「影槍」

が鮮明に映し出されました。西に傾きかけた太陽、槍ヶ岳、山荘横の雲、それぞれの位置が絶妙なタイミングで重なり、滅多に見られないであろう景色に周りからも感嘆の声が上がっていました。

そして、夕食後は真っ赤な夕焼けを見ながら昨日残った「知多」をチビリチビリ。夜トイレに立った同僚は、満天の星空に架かる天の川を鑑賞したらしいのですが、私は疲れもあって朝まで熟睡して見逃してしまいました。

７月１５日（日）

本日も快晴無風。見事な朝焼けと御来光を槍の肩越しに眺め 6 時頃から下山開始。上高地までの長丁場、下りでケガしないように慎重に降りていき、徳澤園でカレーを食べ、14 時頃上高地バスターミナルに無事到着しました。

今回は最後まで天気に恵まれた山行で、槍ヶ岳頂上からの 360° の眺望、西岳に浮かぶ「影槍」、笠ヶ岳に沈む真っ赤な夕陽、槍の肩越しの御来光など全て感動モノでした。そして、若くパワーがみなぎっていた頃には及ばずとも、まだまだいけるかも？と思えたことも収穫です。

しかし、全てうまく行く訳もなく、帰りは中央高速が事故の影響で大渋滞。上野原ＩＣで高速を降りて国道 20 号線をひたすら走り、川崎のアパートに着いた時には夜中の 1:00 を過ぎていました。それでもどうにかワールドカップ決勝戦の後半に間に合い、フランスの優勝を見届けました。

乗 鞍 岳

高 橋 恵 美 子

日　　程　　平成３０年８月４日～７日

パーティ　　佐藤、遠藤、高橋(忠)、内田、高橋(恵)

今年も梅雨にほとんど雨がなく、続く 7・8 月の異常な程の暑さ！　これから先もどんどん暑くなり、台風も大きくなるばかりとか？　もう異常気象が当たり前になってしまうのだろうか？　せめて、夏山は涼しいところに！　との思いから、久しぶりに 3000M超えの乗鞍岳に行くことになった。

５日、島々にある道の駅「風穴の里」で仮眠後、乗鞍高原へと向かう。登山口である畳平までマイカーで入る事は出来ず、シャトルバスに乗り換えなければならない。バスターミナルに着いたところで、タクシーの運転手さんが声を掛けてきた。一人 3000 円で往復してくれると言う。バスに比べて大部安く済むので有り難い。タクシーは 2 台しか無いそうだ。車は乗鞍エコーラインを走り、2700M の畳平まで一気に上がる。労せずして 3000M 峰へと言う訳だ。申し訳無いようだ。森林限界を越えると解放感に溢れた乗鞍の峰々の眺めは素晴らしく、気分が高揚する。

駐車場から鶴ヶ池の脇を通り、まずは富士見岳頂上を目指す。上々の天気に気分も良い。振り返れば畳平を取り巻く大黒岳や恵比寿岳・魔王岳、乗鞍スカイラインなどが一望のもと。さすが 3000M。頂上に着いて一休み。剣が峰に続く稜線も良く見える。正面の不動岳の斜面から不消ガ池に落ち込む雪渓が、きれいなコバルトブルー色でなんだか流氷のように見える。下って、富士見岳を迂回する遊歩道に合流するとまもなくコロナ観測所と肩の小屋への分岐に出る。

肩の小屋前から、やっと登山道らしくなる。道は朝日岳と蚕玉岳の鞍部に向かっている。さすが乗鞍！　登山者がいっぱい、列を成している。普段、数えられる程度の登山者しかいない山ばかり歩いているので圧倒される。それでも、登山道が幅広いので邪魔に感じる事はない。何もないように見える黒い山肌にも、良く目を凝らしてみれば可愛らしいコマクサが沢山咲いている。

ズリズリと歩きにくい岩交じりの砂礫の道のせいなのか、それとも久々の 3000M 超えのせいなのか、はたまた人酔いなのか？　急登と言う程でもないのに、何だかやけに疲れる。年か？

鞍部からは赤茶けた火口壁の下に権現池が見え、周囲の峰々と相まって独特の雰囲気を醸し出している。吹き上げて来る風が気持ちいい。剣が峰を見上げれば、やっぱり人の列。見晴らしのいい尾根道を進んで行くと頂上直下は渋滞中。１１時５０分無事頂上に到着。遮る物が何も無いすこぶる展望のいい頂上には、乗鞍神社本宮がある。宮司さんらしき方がいて、御守りやバッジも売られていた。穂高連峰や焼岳は、雲が

かかったりして何となくボヤーとしているが乗鞍の峰々はくっきり！　展望を楽しみ、順番待ちで記念撮影。混雑する山頂を後にした。

肩の小屋からは畳平には戻らず、大雪渓の横を通って肩の小屋バス停に下る。このコースにはチングルマやウサギギク、トウヤクリンドウなどの高山植物がいっぱい。癒されるなぁ。そして大雪渓に目をやれば、沢山のスキーヤー。こんな場所で滑るだけあって皆上手い。度胸がいいなぁ。２５分程でバス停に到着。

迎えのタクシーを待って、キャンプ場に移動。涼しいはずのキャンプ場のサイトは西陽があたって暑い、暑い！　タープを張るだけでバテバテになってしまった。陽が落ち、ようやく涼しくなる。「いがやレクリエーションランド」から「乗鞍ベース」と名称変更したキャンプ場はとても広く、乗鞍岳がよく見え、ロケーションが素晴らしい。設備もリニューアルしたばかりのようで、きれいで快適だ。盆前なので大混みと言う程ではなく、星のきれいな静かな夜でした。

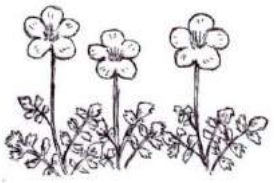
翌６日、本日は一ノ瀬園地近くの前川で釣りを楽しむ予定。でも釣りだけではもったいないので見晴岩まで軽くハイキング。見晴峠を越えて更に行けば、上高地乗鞍スーパー林道を経て白骨温泉にたどり着く道だ。バスターミナルから１０分余り、登山道の入り口はちょっと判りにくい。が、道は良く整備されていて歩きやすい。見晴岩まではカラマツの植林地を１時間程歩く。登山道の途中にデッカイ岩。こんなのが飛んできたのか。正面から見ると鬼の面のように見えなくもない。上までよじ登ると乗鞍岳と乗鞍高原の眺めがいい。１時間程ゆっくりした後、往路を戻る。

午後からは前川でイワナ釣り。思い思いの場所に散って釣りを楽しんだ。誰も期待した程の釣果は無かったが、それでも味見する程度にはなりました。

７日、３本滝を観光した後、帰途につく。今回２度目の乗鞍でしたが、東北方面が中心の山行ではあまり目にすることがない風景で新鮮に感じられた。時々はいいよね、北アルプス。乗鞍は登山者だけでなく、自転車でも大勢の人達が来ているし観光客も多く、メジャーな割には俗化した感じが無く、以前と余り変わっていなくてホッとしたのでした。

コースタイム

畳平 9:12　―　富士見岳 9:45　―　肩の小屋 10:25　―　山頂 11:50/12:36
―肩の小屋 13:17/13:25　―　肩の小屋口バス停 13:47



勘七の沢 ヒル多し

金 井 秀 明

日　　程　　平成３０年８月２０日
パーティ　　金井、他２名

たまに登山しているという同級生に沢登りの話をしたら、ぜひやってみたいというので勘七の沢へ行ってきた。最近の丹沢はヒルが多いというけれど・・

早朝４時に銚子を出発、表丹沢県民の森に到着し８時過ぎに歩き出す。登山口にはヒル除けの塩が用意されている。自分たちはネットで効果絶大と書いてあったエアーサロンパスを足元や首筋にスプレーして沢に入る。

すぐ現れた５ｍのＦ１でさっそくザイルワークの練習をして登る。このあとも次々と滝が続くがＦ２からＦ４までは慣れたパーティならばロープはいらないだろう。きれいな渓流を進むのは気持ちがいいが、今年は猛暑の夏なのに今日に限ってやや涼しいのが残念だ。

やがてこの沢最大の滝Ｆ５に到着、１５ｍあるので慎重に確保して取りつく。水流沿いを登るのだが、今日は水量も多くけっこう水を浴びる。

Ｆ５を過ぎて昼飯をとる。ザイルワークを教えながらなのでコースタイムよりだいぶ時間がかかっている。昼飯休憩中、はじめてヒルを発見。手の甲をはっていた。サロンパスをスプレーするとコロッと落ちる。噂通りよく効く。見つけたヒルは殺すのがルールだ。少しでも減るように願おう。ここらへんからヒルはよく見かけるようになった。対策なしではおそろしいところだ。

このあとはゴルジュ帯が続く。せまい谷の中を短い滝が連続し、とても美しく、さらに楽しいところだ。さすが人気のある沢だなあとあらためて思う。

ゴルジュ帯を抜けると水流も少なくなり急傾斜になってくる。稜線に出るには右から合わさる２本目の沢に入らなければならないが、ついあせって１本目の沢に入ってしまった。これは大失敗だった。稜線近くのガレはぼろぼろで恐ろしく、さらに野茨だらけの藪こぎが最後に待ち構えていた。人気のある沢だといってもルートファインディングは慎重にしなければ、と反省する。

稜線に出て靴をはき替え下山にかかるが、ここでも失敗をひとつ。ヒル除けのスプレーをしなかったのだ。沢がおわって気がゆるんでしまったのだろう。下山後、３人とも両足にヒルが取りついていた。たっぷり太って。

また、下山時にひとりがバテてしまい、２時間のところを６時間あまりかかって駐車場にたどりついたのは夜８時をまわった頃だった。ヘッドライトが大活躍。やっぱり山はトラブルがつきもので慎重に計画&行動しなければ、とあらためて思わされた山行でした。

飯豊・白川　（イワナ釣り）

髙 橋　忠

日　　程　　平成３０年９月１３日～１５日

パーティ　　宮崎、佐藤、遠藤、内田、佐久間、高橋(忠)

昨年に続き大日杉小屋泊、白川でのイワナ釣り（宮崎さん、遠藤さん、内田さんは３年連続、佐久間さんは今回が初めての参加)。過去２回、釣り日には雨に降られている。昨年は途中から雨が強くなり、どんどん水が茶色に変わっていく。もう少し引き返すのが遅かったら最後の渡渉、増水で渡れなかったかもしれない。今回は天気に恵まれ今まで行けなかった奥の二股まで行けるかもしれない。

夜７時、小見川を出発し、喜多方辺りでガソリンを入れ、コンビニで朝食のおにぎりなどを買い込み、直接大日杉小屋まで車を走らせる。誰もいないと思って小屋に入ると、玄関に靴が二足、中に入るとテーブルの上に食器類が並べてある。先客が二階で寝ているらしい、予定外だ。起こしてはまずいと思い、我々は１階にマットを敷き、シュラフを出して静かに眠りに就いた。５時頃であろうか、先客の「これから食事をしますので、２階に移って寝てください」という声で起こされ、２階に上がってまた眠りに就いた、が、眠れない。うとうとしている内に明るくなってきた。先客が後片付けを終えて出発した頃を見計らって、下に下りていき、朝食の準備（ただお湯を沸かすだけだが）をして、皆と一緒に朝食を食べる。のんびりと支度をしていると、３人の釣り師がやって来て我々よりも早く白川へと入って行く。まずい！これでは後から行く我々は全然釣れないのではないか。

８：１６　釣れないのを覚悟して４人で白川へ向かう。内田さんと宮崎さん（手術後のリハビリ中）は、それぞれ小屋周辺で釣りをするので別行動。渡渉して２０分ほど登山道を歩くと、昨年沢に下りた残置ロープのある枝沢に着く。今回はその先にも踏み跡があることがわかり、それを辿って行く。更に３０分位歩いたところで、枝沢

が有り、そこを下りていく。少し急で浮き石がごろごろ、苦労したが、沢を歩いてくるよりもかなり距離が稼げた。早速、遠藤さんが糸を垂らしたが釣れない、やはり本流は無理のようだ。

少し歩くと、昨年釣れた左右に枝沢がある場所に到着。また大きいのを釣ってやると、急いで準備して糸を垂らす。他のメンバーは、少し先の左側の枝沢に。釣り初めてすぐにかかったが、バラしてしまう。そのあとは、一向に魚信がない。あきらめて他のメンバーの所へ行ってみると、遠藤さんが２匹釣っただけのようだ。それにしても釣り師達の姿が見えない、どうやら川を上らないで、下っていったみたいだ。

ここを諦めて、奥の二股を目指す。２０～３０分歩くと、滝がある。滝の手前で、４，５匹のイワナの姿を見る。これは釣れるぞと急いで糸を垂らす。すぐさま、大きいのが釣れた。しかし、その後はパッタリである。遠藤さんもかなり粘ったが釣れない。地図を見ると奥の二股も近い、先へ進もうとしたが左右の崖が急で、高巻きが難しそうである。先へ進むのを断念して引き返す。イワナはまだ、３匹しか釣れてない、このままではまずい。最初に釣った二本の枝沢がある場所辺りまで戻り、昼食にする。腹ごしらえをして、最後のチャンスにかける。この枝沢で釣れなかったら望みはない。気合いを入れて釣りにかかる。私は行きに釣りをした枝沢で一人釣りをさせてもらった。釣り始めて間もなく、２７～８㎝の型のいいのが釣れた、その後も続いて、２匹同じくらいのサイズが釣れたが、ここまで。滝登りするイワナの姿も見られ、まだまだ居そうだがもう魚信がない。あきらめて他のメンバーの所へ行ってみると、遠藤さんが、１匹釣ったようだ。結局、合計７匹。何とか６名分のおかずはゲットできたので、小屋周辺で釣りをしている二人に期待して、引き上げることにした。途中、おかずの足しにしようと昨年同様、ミズを採って行く。小屋に戻ったのが、３時１０分。小屋に戻ると宮崎さんはすでに中でのんびりとくつろいでいた。内田さんの姿が見えないので聞くと、上でお昼寝中とのこと。宮崎さんが釣った２匹と合わせ、合計９匹。何とか刺身も出来そうだし一安心だ。　内田さんが、下に下りてきてから皆で白玉入りの懐中汁粉で一服し、４時半頃から夕食の準備に取りかかる。皮剥ぎの遠藤さん、三枚おろしの宮崎さんのコンビで、２匹を刺身に、５

匹を塩焼き（宮崎さんは、何度も桧枝岐に釣りに行き、イワナを食べ飽きたらしいので辞退するというので、５人分)、残りを唐揚げにすることになった。ミズのコンビーフ炒め、食担の内田さんが用意してくれた、サラダ、漬け物、鍋・・・かなり豪華な食卓になった。５時半、冷えたビールで乾杯をして宴会の始まり、今夜は貸し切り、気兼ねなく存分に楽しめる。至福のひとときである。

次の日、今日は昨日と打って変わって雨である。８時頃、朝食のカレーを食べ、その後、梨を食べながらお茶をし、１０時頃に小屋を後にした。我々と入れ替わりに、雨で登山を断念して、小屋で停滞しようとする５，６人のパーティがやって来た。年配の男のリーダーと後は若い女性だ。羨ましい。

いつもの白川荘で汗を流して、母成峠古戦場を見学。戊辰戦争、会津藩の母成峠陣跡である。塹壕や砲台跡が残っている。今はあまり観光客も訪れないのか、駐車場には立派な石碑や説明板はあるものの、塹壕を見ようと林の中に入ってみると案内標識が何もなく（所々に赤テープで目印があるだけ)、何とか塹壕跡はわかったものの、砲台跡に至ってはここがそうかなと想像するだけであった。もう少し中の遺構の説明板が欲しかった。

大日杉小屋、とても居心地の良い小屋である。時期はわからないが、また来年も来るであろう。山岳会なのに、山に登らない、釣りと小屋泊を楽しんだ２日間でした。

鍬ノ峰

内田章子

日　　程　　平成３０年１０月７日～９日

パーティ　　佐藤、高橋(恵)、遠藤、高橋(忠)、佐久間、内田、他１名

道の駅ほりがねの里で仮眠。いつもは車の中だが久々に足を伸ばせるテントで。

広々した芝生の上に張ったテントは快適で仮眠にしては思いの外よく眠ることができた。

餓鬼岳登山口の駐車場は、この連休に登っていると思われる人達の車でいっぱいだ。その先の鍬ノ峰白沢側登山口へ向かう。もう少しで登山口の駐車場というところで、ハプニング。なんと根元から倒れた木が道を塞いでいるではないの。ノコギリも鉈も残念ながら持ち合わせがなく、進むには人力で何とかしなければならない。幸いにも一見動かせそうな太さの木であり、場所があったので、力持ちの男性３人で「エィ、ヤァ」とばかりに長いままぐるっと押し曲げて車が通れる所まで避けてしまう。倒木を見つけて処理して完了までの短かったこと。さすが銀嶺の頼もしい男性達。そして「ノコギリ、鉈は常備だね」と。

身支度をし、道標のある鍬ノ峰登山口で歩き始めの記念撮影。(8 時 25 分)　尾根筋に取り付き登山開始。階段状のいきなりの急登である。高瀬川線送電鉄塔まで１５分ほど登っただけで暑くなってしまい長袖から半袖になる。うっすら紅葉した山々の奥に餓鬼岳が頭を出し、風もなく穏やかな陽気の中ゆっくりと進む。鉄塔を過ぎてからも笹原地帯の登りは、ずっと急勾配が続くが、登るにつれ柔らかな色合いの紅葉に癒される。

前を歩くみんなを追って急ぐこともなくマイペースで歩いているせいか、それとも“飲む酸素”なるものを飲んで自己暗示にかかっているせいか、いつもより息切れがしない。ところが、後ろにつく忠さんがわざとなのか、本当になのかめずらしく息切れしている様子だ。ついつい振り返ってしまうほどに。ほんの短時間の出来事ではあったがいつもとは逆になってハァハァ言っている音が小気味良い響きで聞こえた。

花崗岩ザレ地の主稜線に出て、尾根筋は勾配も幾分ゆるやかになり大町の田園風景が眼下に見えてくる。小休止のあと再び尾根筋を先に進むと、右側が切れ落ち大岩にロープが掛けられている箇所に到着。緊張を強いられる第一関門である。ロープを頼りに慎重に足場を確かめて、渡りきる。

キレットに下るトラバース地点など何ヶ所か緊張する岩塊地を登ると頂上手前のピークに辿り着く。やっと目の前に主峰の頂上が望まれる。腰の辺りまで高くなった笹原の中を進むと遮るものがなにもない鍬ノ峰山頂である。(10 時 50 分)

アルプスの山々が連なり、反対側には大町市、安曇野の田園地帯が広がっている。ここまですぐ登って来られそうに思えるほど近くに見える。こちら側を見ると里山という感じだが、山の方を見るとあまりに雄大な景色で、とても里山とは思えない。

山々を眺めながら早速、地図を手にみんなで山座同定だ。日焼けを気にしなければならないほどの上天気。青空を背景につらなるアルプスの山並み。　餓鬼岳、烏帽子岳、針の木岳、蓮華岳など。

紅白の白玉入り懐中汁粉を美味しくいただき、山頂にしては地味な、それがまた合っているような鍬ノ峰の標識を囲んで記念撮影。そして、ゆっくりと大展望を心ゆくまで楽しむ。

（12 時）　下山開始。往路を慎重に下る。

急登だったので下りは少し不安だったが、以外に早く登山口に到着。（13 時 30 分）宿に行くのは時間が早いので、山頂から見えた七倉ダムを見学。長い階段をダムの上まで登るのはきつかったが、エメラルドを薄めたような神秘的な色の水に陽が差し、山の影が映り、あまり経験出来ない場所からの景色は得がたいものだった。

宿泊先のケビンに行く前に葛温泉、信州秘湯会の宿、高瀬館で入浴。楽しみにしていたケビン「カナディアンビレッジ・モントリオール」へと向かう。予想していたとおりの外観、設備ともなんとも素敵なケビンだ。

言うまでもなく、食べて、呑んで楽しい一夜を過ごす。

翌 9 日は、何十年ぶりかの美ヶ原をのんびり散策する。はるか昔にどこかの山へ行った折に寄った「美しの塔」で鐘を鳴らし記念撮影をして・・・

「鍬ノ峰」初めて聞く山の名前でしたが短時間の急登で、あの大展望を見ることが出来るとても良い山でした。

計画を立ててくれた佐藤さん、ありがとうございました。

南 極 装 備 ！

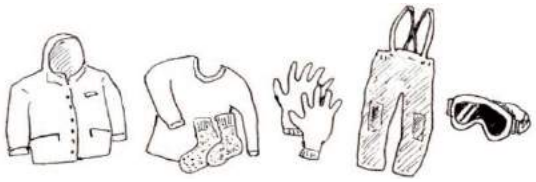
金 井 秀 明

だんだんと寒さに弱くなってきました。ちょっと年を重ねてきたせいでしょうか。冬山やスキーに喜んで出かける先輩方はすごいと思います。

そんななか、数か月前テレビでタレントが南極に挑戦する番組があり、その装備を詳しく紹介していたので、思わず書き留めてしまいました。これを着用すれば最強の防寒になると思いますので、話のタネに紹介します。22 万円で南極でも通用する装備が欲しい方はぜひ！

靴　下　・・・・・・マウンテニアリング　Smart Wool	3.348 円
手　袋　・・・モンベル　メリノウール　インナーグローブタッチ	1.512 円
肌　着　・・・・・・パタゴニア　Capline TW クルー	11.880 円
長袖シャツ　・・・・パタゴニア　RI Hoody	21.600 円
上着（ジャケット）・・ノースフェース　Super Versa Loft Jacket	27.000 円
アウター　・・・・・モンベル　ポーラダウンパーカー	39.420 円
タイツ　・・・・・・パタゴニア　Capline TW ボトム	11.880 円
ズボン　・・・・・・モンベル　ポーラダウンビブ	29.700 円
マスク（目出帽）・・・OUTDOOR RESERCH　Sonic Balaclava	5.400 円
帽　子　・・・・・・ノースフェース　Expedition Cap	12.960 円
ネックガード　・・・モンベル　ストレッチ CP200 ネックゲーター	1.944 円
ゴーグル　・・・・・SWANS　GUEST MPDH	15.120 円
オーバー手袋　・・・AOI WORKS　セキュアサーモネオ	2.980 円
靴　・・・・・・・・BAFFIN　IMPACT	24.000 円

（合計 約 22 万円）



・・・・・　旧会員 桜井利信さんを偲んで　・・・・・

古 川 進 一

私は、銀嶺山岳会発足当初から桜井さんとは山行が多く、またいろいろと登山の知識を教えていただいた先輩でした。

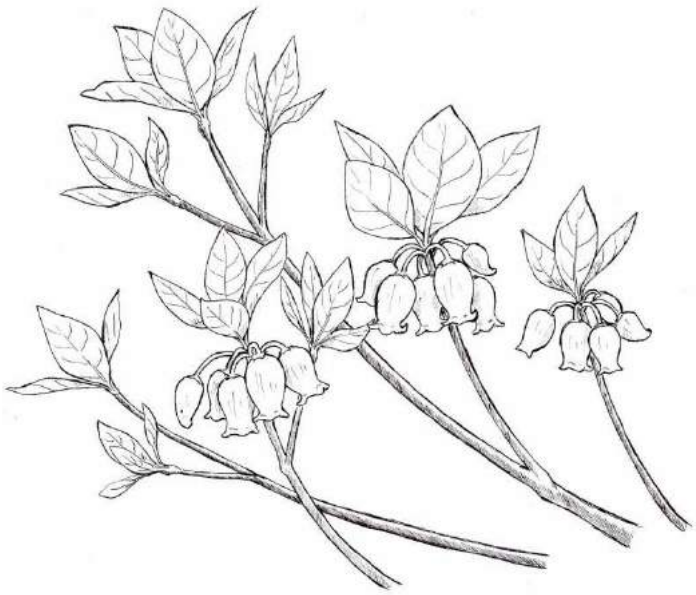
夏の白根三山、北岳から塩見岳縦走、五月の奥穂高岳と槍ヶ岳、六月の谷川岳一の倉沢南稜の岩登り等、たくさんの山行を共にしました。

体力があったので、いつも他の参加者の分まで荷物を背負ってくれ、頼れる方でした。

退会されてからも、会社退職後は市民バス山行には参加してくれました。

秋の月山の山行が最後だと思いますが、その後は病気で長い療養生活を送られ、今年の七月末に 83 歳で逝去されました。

御冥福をお祈りします。



表紙のことば

金 井 秀 明

山岳会の会報の表紙だから、立派な山をどんと描いてみたいと思いました。以前、剣岳を描いたから今度は槍か穂高あたりがいいなあと思っていましたが、今年は夏山合宿が乗鞍だったし、佐藤健一さんは槍へ行ったし、ちょうどいい機会なので槍ヶ岳を表紙としました。

いちおう北穂からの眺めです。ずっと前に内田さんたちと行って憧れの北穂小屋に泊まったことを思い出します。天気に恵まれ素晴らしい景色を堪能できました。さらに、内田さんたちは夜中に北穂の頂上へ登って、夜景も楽しんだようです。起こしてほしかったなあ・・・

あまりに有名な景色ですがご容赦ください。

平成３０年度　役員

会　　長	古 川 進 一
副 会 長	金 井 秀 明
ﾁｰﾌﾘｰﾀﾞｰ	宮 崎　睦
リーダー	遠 藤 博 昭　原 田 裕 之　高 橋 恵 美 子
事 務 局	金 井 秀 明
会　　計	内 田 章 子　永 井 陸 夫
庶務連絡	佐 藤 健 一
装　　備	金 井 秀 明
会報編集	金 井 秀 明　高 橋　忠　小 山 田 泰 幸
	内 田 章 子　高 橋 恵 美 子　高 橋 充 夫

ふ み あ と

平成29年

10月26～28日	明神ヶ岳（きのこ山行）・・・・・	水野、遠藤、宮崎、高橋恵 佐藤、内田、高橋忠、高橋充
11月11～12日	社山・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他１名
16日	宝篋山・・・・・・・・・・・・・	高橋恵、他１名
23～25日	御座山・・・・・・・・・・・・・	宮崎、高橋忠、佐久間
25日	高尾山・・・・・・・・・・・・・	高橋恵、他１名

平成30年

1月7日	富山・・・・・・・・・・・・・・・	遠藤、高橋恵、佐久間、宮崎
27～28日	赤城・鍬柄山 ・・・・・・・・	内田、遠藤、宮崎、原田、 高橋忠、佐久間
2月11日	十石山・・・・・・・・・・・・・	原田
12日	高尾山・・・・・・・・・・・・・	高橋恵、他１名
3月10～12日	スノーシューハイキング・・・・	宮崎、遠藤、高橋忠、
	（一ノ倉沢・雨呼山）	内田、佐久間、水野
16～17日	五里ヶ峰・・・・・・・・・・・・	高橋恵、佐藤、金井
28～29日	三毳山・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他１名
4月1～3日	栗駒山 山スキー ・・・・・・・・	宮崎、遠藤、内田、高橋忠
3日	角田山・・・・・・・・・・・・・	高橋恵
4日	弥彦山・・・・・・・・・・・・・	高橋恵
8～9日	仙人ヶ岳・・・・・・・・・・・・・	宮崎
27～28日	夕日岳・・・・・・・・・・・・・・	宮崎、他１名
5月 4～ 5日	鹿岳、桧沢岳・・・・・・・・・	小山田、他１名
6日	赤城・長七郎山・・・・・・・・	遠藤、高橋恵、内田、高橋忠
15～18日	桧枝岐村　渓流釣り・・・・・・	宮崎
26日	常念岳・・・・・・・・・・・・・	原田
28～31日	桧枝岐村　渓流釣り・・・・・・	宮崎
6月6～8日	長井葉山(山菜山行) ・・・・・	遠藤、高橋恵、佐藤、内田 金井、高橋忠

17 日	加波山・・・・・・・・・・・・	原田
17～20 日	桧枝岐村　渓流釣り・・・・・・	宮崎
25～28 日	桧枝岐村　渓流釣り・・・・・・	宮崎
28～7/1 日	栗子 滑谷沢左俣・・・・・・・	遠藤、佐藤、高橋忠
7 月 1 日	大源太山・・・・・・・・・・・	原田
10 日	鎌倉アルプス・・・・・・・・・	高橋恵、他１名
13～15 日	槍ヶ岳・・・・・・・・・・・・	佐藤健、他１名
15 日	小黒川本谷・・・・・・・・・・	原田
8 月 4～7 日	乗鞍岳(夏山合宿)・・・・・・・	遠藤、高橋恵、内田、佐藤 高橋忠
20 日	勘七の沢・・・・・・・・・・・	金井、他２名
9 月 13～15 日	飯豊、白川・・・・・・・・・・	宮崎、佐藤、遠藤、内田、 佐久間、高橋忠
24 日	雨巻山・・・・・・・・・・・・	高橋恵、他１名
10 月 7～ 9 日	鍬ノ峰・・・・・・・・・・・・	佐藤、高橋恵、遠藤、内田 高橋忠、佐久間、他１名
9 日	三つ峠(岩トレ)・・・・・・・・	金井、他２名
26～28 日	明神ヶ岳（きのこ山行)・・・・	遠藤、宮崎、佐藤、高橋忠 内田、佐久間

編　集　後　記

今年は、諸事情により例年の半分弱の山行しかできなかった。次の山行まで、１ヶ月ちょっと開くと、出かけるのが億劫になるし、登るのもきつい。普段の運動不足及び加齢もあるのだが。来年はいつものペースで山行ができたらなと思っています。

高　橋　　忠

頼りになる水野さんが退会され、編集も大変になると思いましたが、内田さんが原稿の割り振り等に頑張っていただき、今年も順調に会報が出来あがりました。

金　井　秀　明

雪、新緑、紅葉と一年を通して楽しく充実した山行ができました。サポートして下さる皆さまには、感謝、感謝です。残念なことは、長年お世話になった水野さんの退会です。

内　田　章　子

念願の角田山・弥彦山のカタクリを見てきました。山スキー山行と同時期なので、仕方なく１人でツアーに参加したのですが、なかなか快適でした。どちらの山も行けども行けどもカタクリで、ホントに素晴らしかったですよ。

高 橋 恵 美 子

６０を過ぎてから体調不良が続き情けない今日この頃です。しっかり体調を整えて、また元気に山行に参加したいと思っています。

高　橋　充　夫

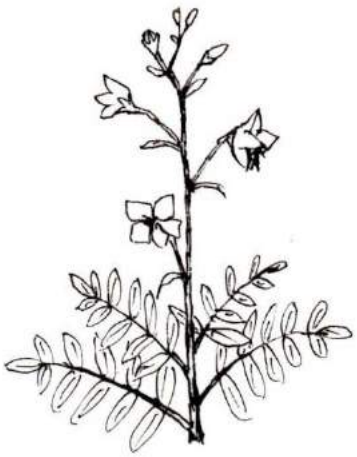
今回、図らずも「ぎんれい」の楽屋裏を覗くことができました。これまでの編集委員の皆さまの労苦に頭が下がります。

小 山 田 泰 幸

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

編集後記をかく立場ではありませんが、長く親しんできた会報に退会の挨拶を兼ねて書かせてもらいます。ここ 2 年程で体力気力の衰えが著しく、軽い山行でもきつくなってきました。この辺が潮時と考え、年度末の 3 月に退会させてもらいました。今後も夫婦で軽い山をのんびり歩いて行こうと考えています。会の皆様、長い間、お世話になり、**ありがとうございました**。

水　野　照　雄



「ぎんれい７４号」

発　　行　〒288-0837
千葉県銚子市長塚町３－１４８
銀 嶺 山 岳 会
TEL. 0479(22)7698

http://www.asahi-net.or.jp/~cj4k-stu/

編　　集　編集委員
発行月日　平成３０年１２月８日
印　　刷　フルノライフベスト株式会社